

■今年度の活動内容設定時に参考とした「他校の環境に関する取組」					■今年度のグリーンカーテン実施状況 (朝顔、ゴーヤ、ヘチマなど) □実施した ■実施していない		
取組テーマ	取組目標	具体的な活動内容		担当者	活動主体	取り組んだこと、その実績	1年を振り返って
限りある資源を必要に応じて適切に使用する	適切に使用するのはどのようなことなのか、日々の実践を通して体得できるようにする。	1	長時間教室等を空ける際は、照明を消す。	各担当教諭 教頭	教職員 児童	定期的な声かけ。つけっぱなし、出しっぱなしを見かけたら消す・閉める活動。 担任や授業者への定期的な声かけ及び意識付け。 換気をしつつ空調を使用して、感染症の蔓延をできるだけ起こさないように呼びかけ。	【取組の評価】 □達成できた □ほぼ達成した ■達成できなかった 【理由】 先生方への呼びかけのみで、児童への呼びかけを行わなかった。委員会活動を活用する手立てが考えられる。 【今後の課題】 全校児童に計画的に伝える計画を立てる。  【次年度への引継ぎ事項】 児童に効果的に伝え、自分事として考えられるような手立てを実施する。環境委員会を活用する。 何を持って空調使用の「適切」とするのか検討が必要。
		2	空調の適切な利用。 心身の健康を第一にした上で、適切な空調使用を心がける。	各担当教諭 教頭	教職員 児童		
		3	水道水の適切な使用。 手洗いなど必要な場面で、石けんでの擦り洗い中などは水道水を止める。	各担当教諭 教頭	教職員 児童		
使用済みおよび不要物品の適切な廃棄をする	市のごみ分別とその理由について日々の実践を通して体得するようにする。	1	ごみとして処分する物品を適切に分別する。再利用できる資源としての意識を持つ。	各担当教諭 教頭	教職員 児童	教室内に燃やせるごみとプラごみのごみ箱を設置した。意識してごみを分別するようになった。 ごみの排出量はそれほど変わらなかったが、無駄遣いをなくすよう心がけた。 物品を大切にすることにしましては、まだまだ。注意をするよう声かけをするが、徹底できていない。	【取組の評価】 □達成できた □ほぼ達成した ■達成できなかった 【理由】 個人の持ち物を含め扱い方が乱暴であった。破損が多い。 児童の物品(落とし物)の数が多く、取りになかなか来ない。 【今後の課題】 ものを大切にすることを育てる。  【次年度への引継ぎ事項】 物品の管理や使用方法を考える。
		2	物品ができる限りごみとならないように大切にし、工夫して使用するようにする。	各担当教諭 教頭	教職員 児童		
		3	個人の持ち物を始め学校の物品を大切に扱い、長く使用できるようにする。	各担当教諭 教頭	教職員 児童		
		4	ベルマーク教育助成財団の取組から使用済み物品の資源化を学ぶ。	東小会(保護者会) 教頭	保護者 児童		
自然愛護	学習で育てる植物の育成や自然環境を大切にすること。	1	学習で使用する植物を愛でる心情を育てる。	各担当教諭	教職員 児童	緑化委員会が学校に花を植えたり、保護者会で花壇を整備したり、低学年が花や野菜を育て、どれも世話をきちんとし、きれいな花やおいしい野菜となった。	【取組の評価】 ■達成できた □ほぼ達成した □達成できなかった 【理由】 責任感を持って、朝の時間や休み時間に世話をきちんと行った。 植えた花などにプラカードをつけて意識付けを図った。 【今後の課題】 活動主体の児童以外にどのように広げていくか。  【次年度への引継ぎ事項】 今後も活動を続けていくかどうか。
		2	野菜の栽培を通じて、植物や自然に対する感性を育てる。	各担当教諭	教職員 児童		

●写真等の記録：活動や発表の風景等取組の記録を、必要に応じて添付してください。写真等の下に、キャプションをご記入ください。個人情報の取り扱いにご注意ください。

写真

写真

●学校長（推進責任者）によるコメント

【学校長名】

柴田貴行

【今後の方向性について】

・節電、節水、ごみと資源物の分別、緑化など基本的な取り組みが中心となるが、児童は毎年新たな学年に進級し、成長に応じてひとつずつ新しい取り組みを学んでいくことになる。学校生活の基礎となる小学校段階で必要な学びをし、定着を図ることは、今後も必要であり、本校でも継続して取り組んでいきたい。

・6年生は、単年度の取り組みとして、昨年度茅ヶ崎市が行った「サステナトレセン Project」を経験していることから、今年度は学級単位で地域の店舗と連携し、過剰生産された農産物を廃棄するのではなく食材として活用することをねらった新商品開発を行った。各店舗での商品の販売につながり、廃棄される予定であった食材を活用し、店舗としては次年度以降も継続ができる資源の循環にたずさわった。この取り組みは、協力者や取り組み以前の児童の学習状況等各種条件が整わないと実施が難しい面もあるが、機会があれば今後も取り組む可能性がある。